

Actian Zen v13 Workgroup のライセンス



株式会社エージーテック

2019 年 1 月 18 日

免責事項

株式会社エージーテックは本書の使用を、利用者またはその会社に対して「現状のまま」でのみ許諾するものです。株式会社エージーテックは、いかなる場合にも本書に記載された内容に関するその他の一切の保証を、明示的にも黙示的にも行いません。本書の内容は予告なく変更される場合があります。

商標

© Copyright 2019 AG-TECH Corp. All rights reserved. 本書の全文、一部に関わりなく複製、複写、配布をすることは、前もって発行者の書面による同意がない限り禁止します。すべての **Pervasive** ブランド名および製品名は、**Pervasive Software Inc.** の米国およびその他の国における登録商標または商標です。また、すべての **Actian** のブランド名は、**Actian Corporation** の米国およびその他の国における登録商標または商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Actian Zen v13 Workgroup のライセンス

最終更新：2019 年 1 月 18 日

Actian Zen (PSQL) は、v11 以降 Workgroup のライセンス体系が大きく変更になり、購入されるお客様が混乱されていることを時々感じています。

本資料では、PSQL v11 でのライセンス体系の変更内容および、主な構成毎に必要な製品についてご案内します。

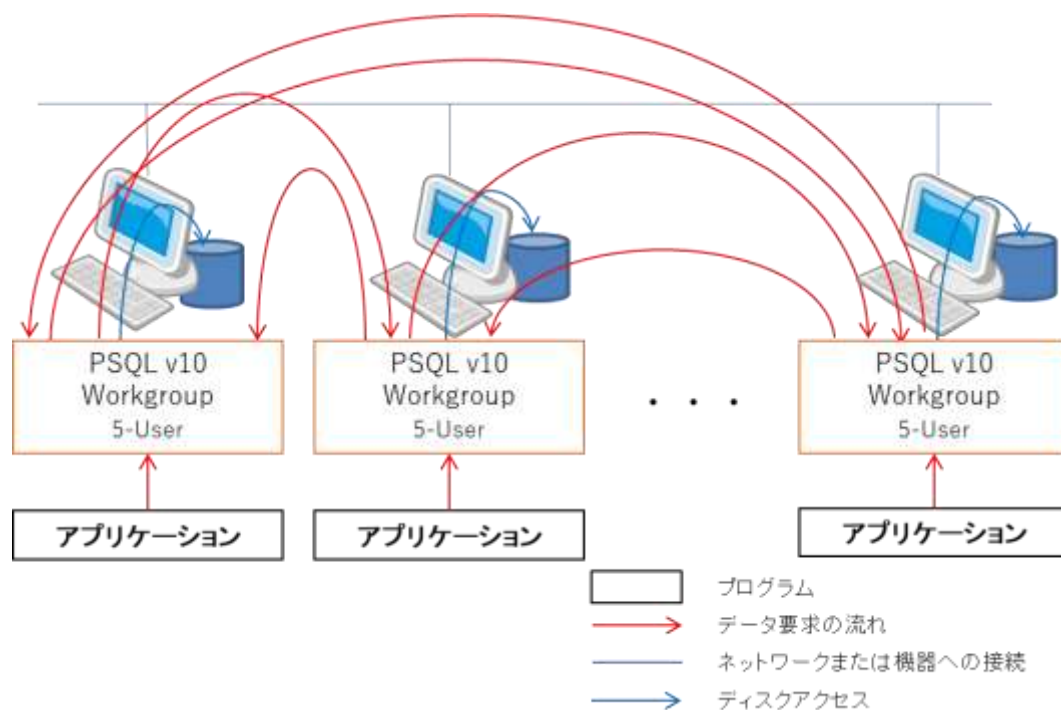
◆ PSQL v10 までのライセンス

PSQL v10 までは 5-User ライセンスを 5 台にインストール可能でした。

各マシンに同時アクセス数 5-User のライセンスが適用されることから、それぞれのマシンが他のマシンからのリクエストに対応可能なライセンスでした。

(自機を含め最大同時アクセスが 5 台まで可能なライセンスです)

ファイルを各マシンに分散して配置して相互に参照する構成に適したライセンス体系といえます。



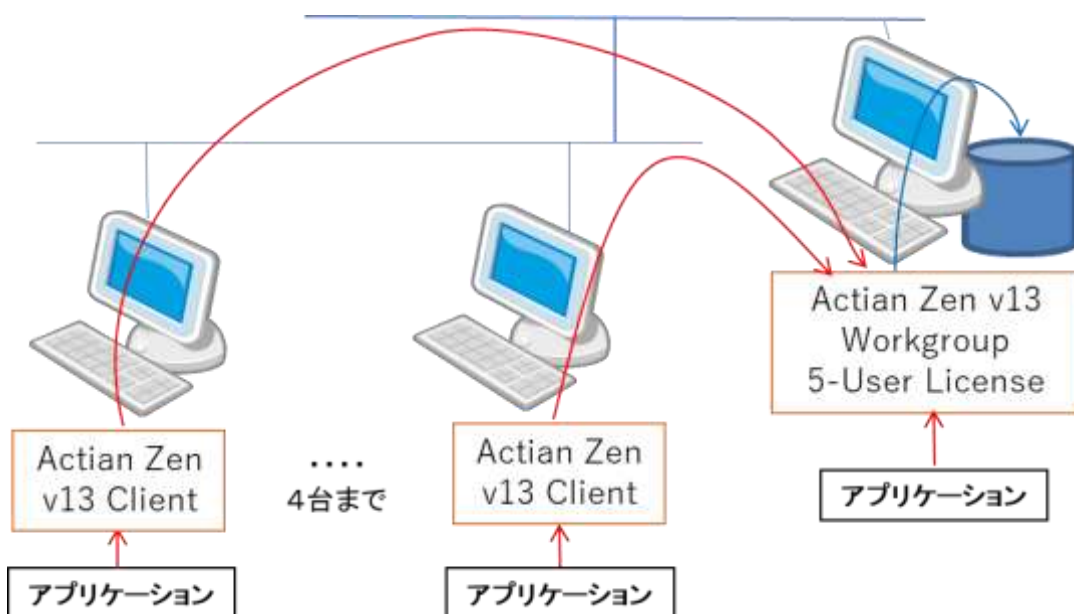
◆ PSQL v11 以降のライセンス

PSQL v11 以降は、サーバー版と同様なライセンスに変更になりました。

例えば 5-User ライセンスは、1 台のマシンにインストール可能なライセンスで 自機 のアプリケーションを含め最大で同時に 5 台のマシンで実行しているアプリケーションからアクセス可能なライセンスとなります。

クライアントには、**Action Zen v13 Client** をインストールして、サーバー機上の **Btrieve** ファイルにアクセスします。

[クライアントがローカルに **Btrieve** ファイルを持たない構成]

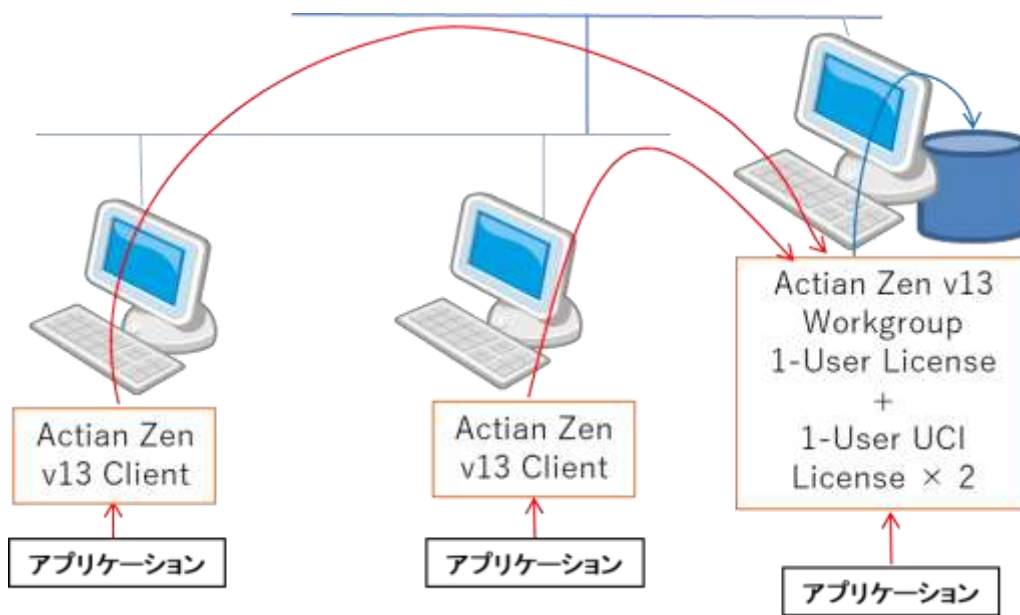


この構成では、サーバーとして使用するマシンに **Action Zen v13 Workgroup 5-User License** 1 本が必要です。各クライアントには、**Action Zen v13 Client** をインストールします。サーバーとして使用するマシンでアプリケーションを実行しない場合、クライアントマシンは、5 台まで使用可能です。

※Control Center 等、Action Zen に付属のファイルにアクセスするツールをサーバーとして使用するマシンで実行する場合にも、接続可能なクライアントは 4 台に制限されます。

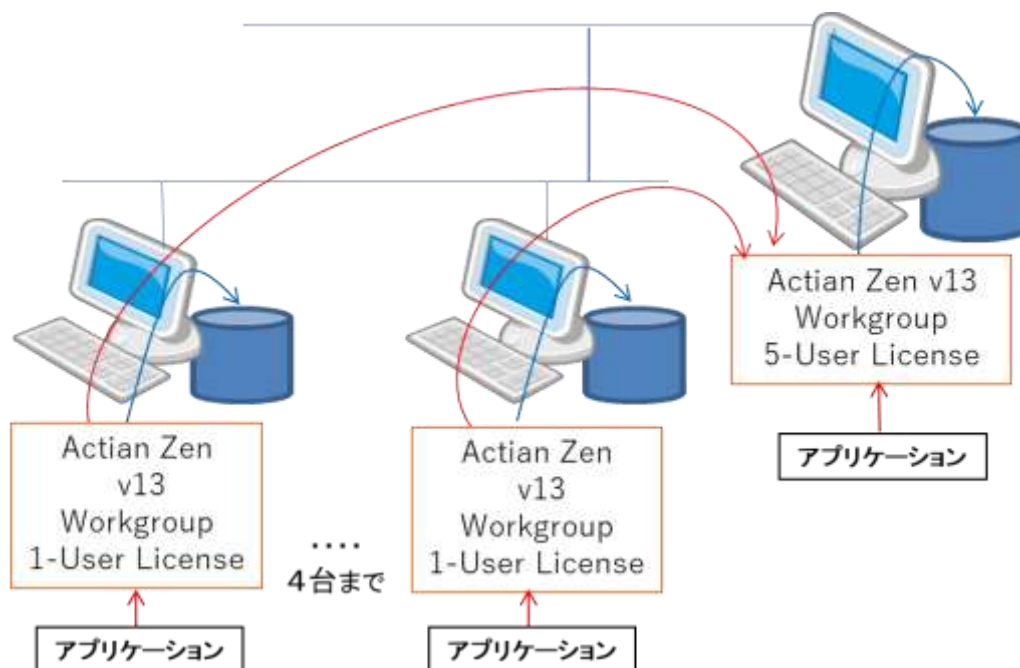
例えば、サーバーとして使用するマシンを含め 3 台のマシンでアプリケーションを実行する場合には、**Action Zen v13 Workgroup 1-User** に加え、**Action Zen v13 Workgroup 1-User UCI 2** 本をサーバーとして使用するマシンに追加します。

これにより、サーバーとして使用するマシンには同時アクセスが 3 台まで可能となります。



接続するクライアントマシンの台数に応じ、Actian Zen v13 Workgroup 1-User UCI をクライアント台数分ご購入いただきます。

[クライアントがローカルに Btrieve ファイルを持つ構成]



この構成では、サーバーとして使用するマシンに Actian Zen v13 Workgroup 5-User License 1 本に加え、各クライアントにも Actian Zen v13 Workgroup 1-User License が必要です。

※サーバーとして使用するマシンには、クライアントマシン台数に応じ、Actian Zen v13 Workgroup 1-User License と Actian Zen v13 Workgroup 1-User UCI License をクライアントマシンの台数分ご購入ください。

サーバー機 1 台 + クライアント 4 台の構成用に、お得なセット製品をご用意しております。

Actian Zen (PSQL) v13 WG 5User plus 1User 4 Pack

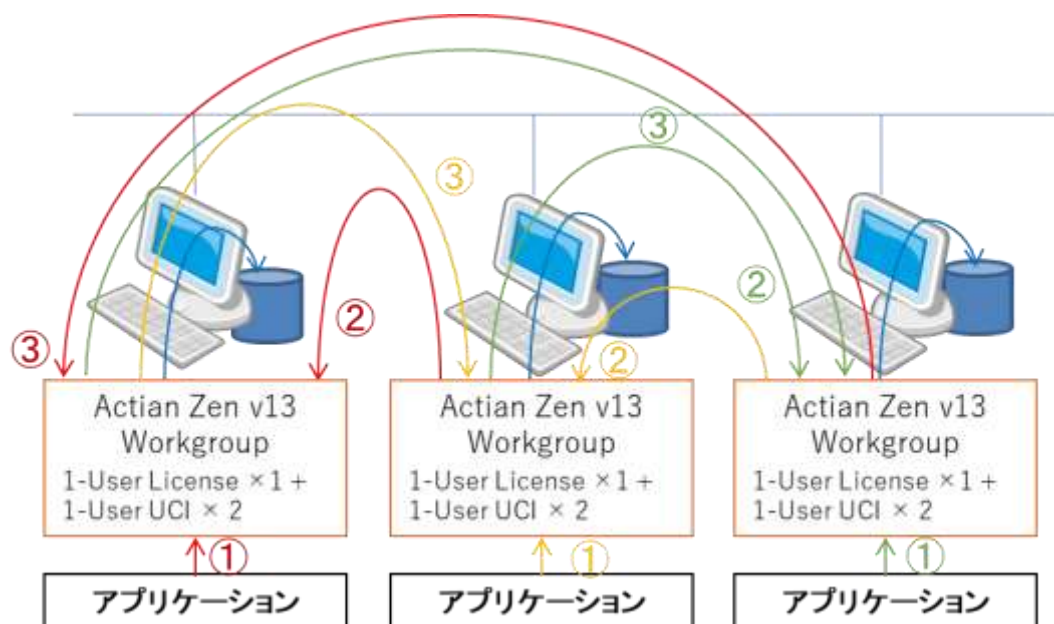
この製品は、サーバー機用の WG 5-User と クライアント用の WG 1-User 4 本のライセンスがセットになっています。

[ファイルを各マシンに分散して配置して相互に参照する構成]

ファイルを各マシンに分散して配置して相互に参照する構成では、各マシンにマシン台数分の同時アクセスライセンスが必要となります。

例えば、3 台のマシンで相互にファイルを参照する構成では、各マシン毎に Actian Zen v13 Workgroup 1-User License と Actian Zen v13 Workgroup 1-User UCI License 2 本が必要となります。

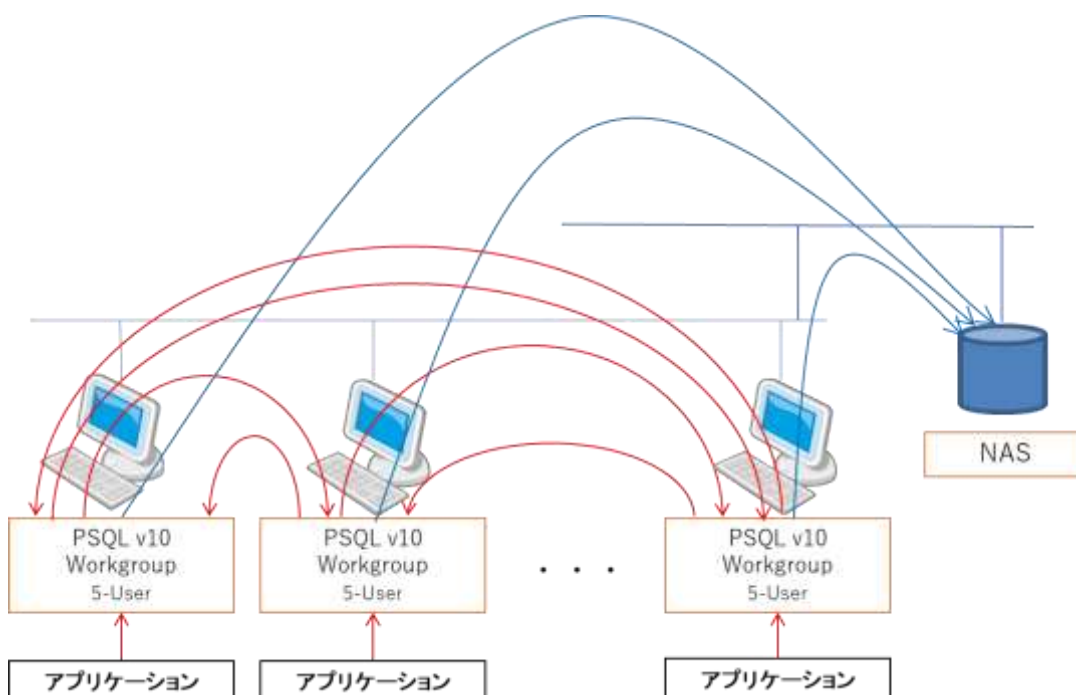
※必要なライセンスは、合計で Actian Zen v13 Workgroup 1-User License 3 本と Actian Zen v13 Workgroup 1-User UCI License 6 本となります。



この構成では、必要となる Actian Zen v 13 Workgroup 製品（ライセンス）が多数となるため、推奨いたしません。

◆ファイルを NAS に配置する構成

PSQL v10 Workgroup では、エンジンがデフォルトでアプリケーションとして実行する設定でインストールされ、各マシンに 5-User ライセンスが適用されるため、特に問題なく使用可能でした。



NAS 上のファイルにアクセスする場合、はじめにアクセスしたマシンで実行している Workgroup エンジンが代表でファイルにアクセスします。

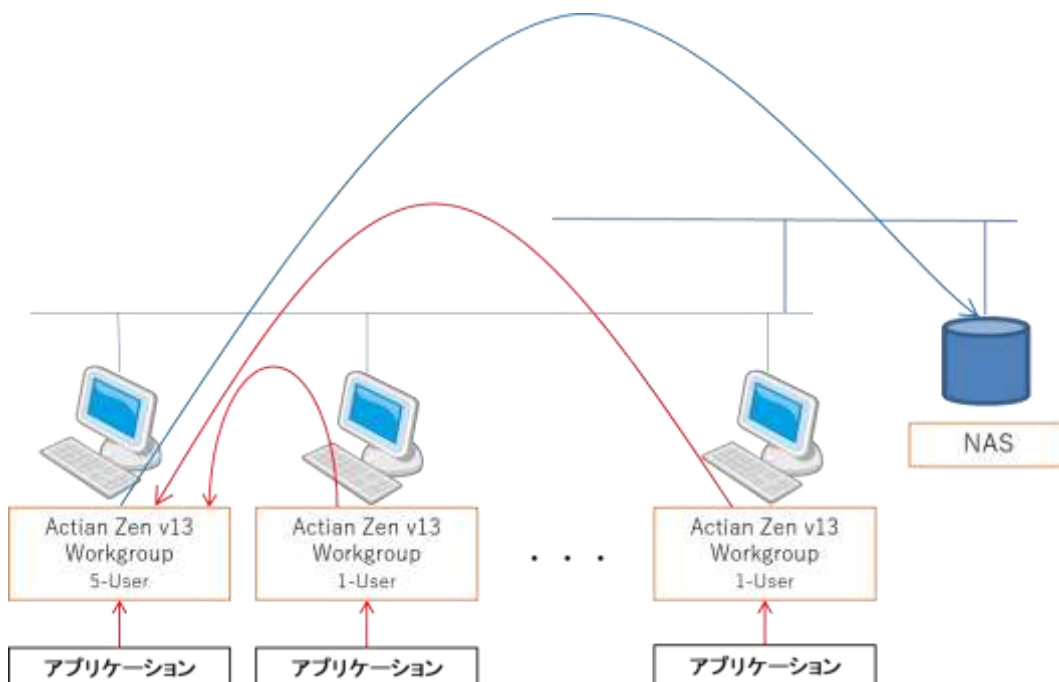
この時、NAS 上にはゲートウェイロケータファイルと呼ぶ制御用のファイルが作成され、どのマシンで実行している Workgroup エンジンが代表でファイルにアクセスしているかを示す情報（マシン名他）が書き込まれます。

2 番目にアクセスしたマシンは、ゲートウェイロケータファイルを参照し、代表してファイルにアクセスしている Workgroup エンジンに処理を依頼します。

このような動作となるため、どのマシンで実行している Workgroup エンジンが代表で処理を行っているかは、その都度変わります。

PSQL v11 からは、前述のような構成で使用する場合、各マシンに Actian Zen v13 Workgroup 5-User が必要となるため、PSQL v10 では、5-User を 1 本購入すれば使用できていましたが、PSQL v11 からは、5 本購入が必要です。

購入する製品を最小限とするには、次のような構成とします。



特定のマシンをサーバーとします。

サーバーとして使用するマシンには、PSQL をサービスとしてインストールし、常時電源 ON とします。

また、ゲートウェイロケータファイル (~pvsw~.loc) を NAS 上の Btrieve ファイルを保存しているフォルダー毎に作成し、5-User を適用したマシンでアクセスを行うように設定します。

この設定は、ゲートウェイロケータユーティリティで行います。

---メモ---

ゲートウェイロケータファイルに設定したマシンの **PSQL Workgroup** を、ゲートウェイエンジンと呼びます。

ゲートウェイエンジンは、クライアントからのリクエストを受け付け、**Btrieve** ファイルへのアクセスを行います。ゲートウェイエンジンが設定されていると、他の **PSQL Workgroup** は直接 **Btrieve** ファイルにアクセスできなくなります。

NAS 上に **Btrieve** ファイルを保存しての運用は、ファイル I/O がネットワークを介して行われるため、エラーが発生しやすくなります。

また、**PSQL v11** 以降、各クライアント毎に **1-User** が必要です。

---メモ---

クライアントが NAS 上の **Btrieve** ファイルにアクセスする場合、**PSQL Client** モジュールが NAS 上のエンジンに対して通信を試みます。

しかし、NAS 上ではエンジンが実行されていないため、通信に失敗します。

この時、クライアントで **PSQL Workgroup** が実行されていれば、**PSQL Workgroup** に切り替わります。

PSQL Workgroup が実行されていない場合は、アプリケーションにはエンジンに接続できなかった旨のステータスが返ります。

PSQL Workgroup に切り替わった場合、**PSQL Workgroup** は、ゲートウェイロケータファイルを確認し、ゲートウェイロケータファイルが無ければ、**Btrieve** ファイルにアクセスします。

ゲートウェイロケータファイルが存在する場合、設定されているゲートウェイエンジンを確認し、ゲートウェイエンジンに処理を依頼します。

この時、**PSQL Workgroup** に有効なライセンスが無いと、ステータス 161 が発生するため、クライアントの **PSQL Workgroup** にも **1-User** が必要になります。